

目次

2面

秋季リーグ開幕

3面

ダンス・バスケ
体操競技
朗報！
続々！

4面

女子駅伝
関東V



パラリンピック 競泳4位入賞

4年に一度のスポーツの祭典、オリンピックが7月から8月にかけてロンドンで行われた。そして、オリンピック閉幕後に開催されたのが、障害者スポーツの祭典、パラリンピックだ。この世界の大舞台に、筑波大学の学生が出場したことはご存知だろうか。その選手は、水泳部に所属する山田拓朗選手（体育3年、兵庫・北摂三田高）だ。

三度目の挑戦

山田選手は生まれつき左腕の肘から下がない。3才の頃、両親の勧めで水泳を始め、最初は水に入ることも怖がつていたが、徐々に頭角を現していった。中学校入学後まもなく、日本史上最年少の13歳でアテネパラリンピックの日本代表入りを果たした。その後、北京パラリンピックにも出場し、今回のロンドンパラリンピックは、自身3度目の挑戦となる。

メダルへの思い

山田選手は小学校低学年の時に、シドニーパラリンピック金メダリストにメダルを見せられた経験がある。それが「金メダルはとも輝いて見えた。いつか自分も獲りたい」という思いが芽生えた。それがパラリンピックを目指すきっかけとなった。また、06年の世界選手権で銅メダルを獲得したことに、世界大会で成績を残す嬉しさを感じた。過去のパラリンピックでは、メダルを手にしたことがなく、今大会にかける意気込みも強かった。

今回のパラリンピックは、前回出場時の環境とは大きく異なっていた。高校卒業までは同じコーチに師事し、故郷の兵庫県を活動拠点にしていた。しかし、更なる記録の向上を目指し、故郷を離れ、本学へと入学した。筑波は設備が良く、水泳部のレベルも高く、全員が高い意識を持っている」との理由で筑波

決戦の地へ

ロンドンパラリンピックの開会式で山田選手は、旗手である全盲の競泳選手の補佐を務めた。スタジアムの歓声を受け、日本選手団の先頭として、一歩一歩踏みしめながら行進した。

山田選手の専門種目は自由形だ。メインの50m自由形の大会当日は、緊張やプレッシャーを感じたというが、「緊張していたほうが、より良いタイムを出せる」と感じたので、その点はあまり気にせず泳いだ」と語る山田選手。3度目のパラリンピック出場ということもあってか、落ち着いた様子でレースに臨んだ。

予選では6月に出した自己ベストを更新する泳ぎを見せた。決勝へは4位のタイムで進出し、3位の選手とは0.15秒差だった。メダル獲得まで手を伸ばせば届く距離にまで来た。そして、決勝6コースで泳ぐ山田選手はここでも26秒22の好タイムを記録し、4位入賞だった。100m自由形も6位入賞で終わった。

今後の目標

「ハンディを不便と思ったことはない。生まれつきのものがあるし、ハンディがあるからこそ今、こうして水泳の世界で戦うことができています。そう語る山田選手の表情は凛々しかった。今大会でメダル獲得とはならなかったものの、パラリンピックに出場するたび、徐々に順位を上げていく。目標は4年後のリオデジャネイロパラリンピックでメダルを獲得すること。パラリンピックでメダルを取るまでは、水泳を辞められない、という内なる闘志を

本学出場選手結果

ロンドンオリンピック

本学関係者結果一覧

サッカー女子 準優勝

安藤梢 人間総合科学研究科体育専攻3年、デウスフルン

熊谷紗希 体育4年ランシフト

柔道男子 準優勝

60キロ級

平岡拓晃 人間総合科学研究科体育専攻2年、徳島学園職員

柔道女子 準優勝

78キロ級

杉本美香 体育専門学群看護マ

柔道男子 第5位

48キロ級

福見友子 体育専門学群卒、人間総合科学研究科体育専攻修了、徳島学園職員

柔道女子 3回戦敗退

78キロ級

緒方重里 体育4年

バドミントン

予選敗退（1勝2敗）

混合ダブルス（池田・潮田組）

池田信太郎 体育専門学群卒、日本ユニシス

ロンドンパラリンピック

本学関係者結果一覧

競泳男子 4位入賞

50m自由形

山田拓朗 体育3年

陸上男子 4位入賞

4×100mリレー（トラック競技）

走高跳（フィールド競技）

鈴木徹 体育専門学群卒



柔道女子 緒方重里

学内壮行会開催



7月9日、大会会館ホールでロンドン五輪・パラ五輪出場選手及び役員壮行会が行われた。

司会はソウル五輪柔道銅メダリストの山口香准教授。まずはダンス部による優勝ダンスが披露された。そしてバルセロナ五輪金メダリストで柔道部監督の岡田弘隆准教授から選手らの紹介があり、山田信博学長による挨拶。皆さんの背後には日本国民がついている。最大限の成果を残してほしい。岡田学長は市副市長が挨拶の後、真田久夫専門学群長からの激励があった。筑波大でスポーツを学んだ者の使命として結果を残してほしい。

次に選手と役員が抱負を述べる。柔道の緒方重里選手（体育4年、熊本・阿蘇高）、平岡拓晃選手（人間総合科学研究科2年、広島・近大付福

山高、卒業生の福見友子選手、杉本美香選手は揃って金メダル獲得宣言。欠席の女子サッカー安藤梢選手（人間総合科学研究科3年、栃木・宇高）と熊谷紗希選手（体育4年、宮城・常盤木学園高）、卒業生でバドミントン混合ダブルスに出場する池田信太郎選手からは、其々メダルセージが届いた。パラ五輪競泳の山田拓朗選手（体育3年、兵庫・県立北摂三田高）、ゴールボールの若杉遥選手（付属視覚特別支援高2年）、卒業生で陸上の鈴木徹選手、ボッチャの秋元妙美選手も「観ている人に勇気と希望を届け、よい結果を報告できるように頑張る」と述べた。続いて加藤沢男先生、学生代表の細田真萌さんからエール、山田学長から記念品の贈呈があり、宣揚歌で幕を閉じた。（武藤菜摘）

筑波スポーツ

平成24年10月29日(月)
第150号

題字:中山雅史氏
(コンサドーレ札幌・蹴球部OB)

